

教育重点	具体的な取組	担当分掌	今年度の達成規準	中間評価	最終評価
I 人間力の向上	①基本的な生活習慣の確立	教務課 進路課 生徒課 教科管理厚生課 学年団 専門科	社会人になる準備としてのTPOに応じた態度、挨拶やマナーが身に付いており、欠席や遅刻数が減少している。また、防災や感染症対策など安全や健康についての意識が向上している。	B	B
	②豊かな人間性の育成	生徒課 教育相談室 学年団 専門科	HRや部活動などの集団生活において、他者を尊重することができる。また、問題の早期発見や連携した対応によって、いじめにつながる芽を摘むことができている。	B	B
	③学校行事の精選と充実	教務課 生徒課 進路課 管理厚生課 学年団 専門科	生徒の関心を高め、モチベーションを引き出すために、重点的に取り組む行事を絞り込んでいる。また、各々の行事に携わる生徒一人一人が、充実感をもって取り組むことができるように、役割分担や仕事内容を明確化できている。	A	A
	④部活動の充実・活性化	教務課 生徒課 専門科	活動状況や大会等の結果がホームページで迅速に発信できている。また、運動部のみならず、文化系及び科学技術系の部活動の活性化が進んでいる。	B	B
	⑤自治活動の充実	生徒課 管理厚生課 図書課 学年団 専門科	生徒が生徒会や各種委員会主導的な役割を果たし、生徒一人ひとりが満足のいく学校行事(体育祭・文化祭)が実施できている。	A	A
	⑥リーダーの育成	生徒課 学年団 専門科	HRや委員会活動、生徒会活動、部活動等を通じて、集団をまとめ、周囲と協調しながらリーダーシップを発揮できる生徒が育成できている。	B	B
II 学力の充実	①学習場面に応じたICT機器の有効な活用を実践	教務課 学年団 専門科 教科	chromebookの導入に伴い、学習活動での積極的な活用と個々に応じた指導の研究が進んでいる。	B	B
	②基礎・基本を定着させる授業を実践	教務課 学年団 専門科 教科	基礎力診断テスト等の「高校生のための学びの基礎診断」の指標等に基づいた学習改善の計画・実践や、小テストや毎時間の振り返り等のスモールステップの取組をととして、基礎・基本を定着させている。	A	A
	③興味の持てる・わかる授業を実践	教務課 学年団 専門科 教科	ICT機器等を効果的に使い、わかりやすく伝えることができる。授業研究や研修、相互参観等を積極的にに行い、自らの指導の改善に生かしている。	B	B
	④SDGsやPBLの視点での学びを実践	教務課 学年団 専門科 教科	SDGsの項目と学習内容やものづくりとの関連を意識させることができている。また、自ら問いを立て、課題を見つけてそれを解決する手段を考えさせるなどの、PBLの視点に立った学びを実践できている。	B	B
	⑤各種大会・コンテスト等への積極的な挑戦	専門科	各専門科の特色を生かした指導体制が確立し、生徒は積極的に各種大会やコンテスト等にチャレンジしている。	A	A
III キャリア教育	①高度な資格取得への挑戦を通じた自己研鑽	資格検定室 専門科	受検者に参考書を斡旋したり、ガイダンス資料を更新したりすることで、職業教育技術顕彰とジュニアマイスター顕彰(ゴールド)認定者数が増加している。	B	B
	②学習活動を通じた勤労観の育成	専門科	学習活動を通じてものづくりの基礎基本を習得し、安全に対する認識を身に付けるとともに、コミュニケーション能力を向上させている。	B	B
	③進路(就職・大学進学)に応じた指導の充実	進路課 学年団 専門科 教科	進路課と学年団や各教科・専門科が連携し、就職・進学ともに生徒の希望や適性に応じた進路指導が充実している。	A	A
	④企業・学校研究の充実	進路課 学年団 専門科	企業・学校訪問等をととして情報の収集に努め、生徒に適切なアドバイスができるよう情報やノウハウの蓄積と共有ができている。	B	B
	⑤情報提供の充実	進路課 学年団	面談や進路希望調査等により生徒の動向を早めに把握し、生徒・保護者に必要とされる情報提供の充実を図ることができている。	B	B
IV 地域連携	①地域や社会と連携した学びを実践	教務課 専門科 学年団	地域連携を通じて体験的・実践的な学びができている。また、地域の観光資源を生かす取り組みや、企業・大学・学校や地域コミュニティ等との積極的な連携ができている。	A	A
	②HP・ソーシャルメディア等での情報発信の充実	教務課 進路課 資格検定室 専門科	学校HPページやソーシャルメディアでの情報発信の充実を図り、広報活動や情報提供の推進が図られている。	B	B
	③作品展示会、学校説明会等の充実	教務課 専門科	地域とのイベントやワークショップで本校のものづくりの魅力を積極的に発信している。また、オープンスクールや学校説明会の充実を図ることで、募集定員を充足している。	A	A
	④社会貢献活動の充実	管理厚生課 学年団 専門科	計画的な社会貢献活動の実施を通して、地域社会の一員としての意識を高めるとともに、達成感や充実感、自己肯定感が高まるよう取り組んでいる。	A	A
	⑤防災教育の充実	管理厚生課	各種の防災研修会等からの情報を共有しながら、生徒の防災についての意識を高める指導ができている。	B	B
V ものづくり	①安全教育を実践	専門科 教科 管理厚生課	5Sの徹底によって、生徒の安全に対する意識が向上し、事故のない安全な教育活動を行うことができている。	B	B
	②最先端のデジタル化対応装置を活用した学びを実践	専門科	先進的な機器を活用することで、より深い学びが実現している。	B	B
	③課題研究等の魅力づくりを実践	専門科	ものづくりを生かしたテーマ設定によって、「主体的・対話的で深い学び」につながる課題研究の実践が進んでいる。	A	A
	④外部人材の積極的な活用を実践	資格検定室 専門科	ものづくりマイスター派遣事業等を活用したり、校外の人材や資産を積極的に活用したりすることで、より高度で先進的、実践的な学習活動が実践できている。	B	A
	⑤実習指導力の向上	専門科	長年の実践で培ってきた指導方法に加え、「主体的・対話的で深い学び」につながる指導方法を取り入れることによって、実習指導力が向上している。	B	B
VI 校内組織の活性化と人材育成	①相互扶助を実践	専門科 課・教科 学年団	自らの担当分野だけでなく、課・科内の業務内容を理解し習得することで相互扶助が進み、業務の平準化と効率化が推進されている。	B	B
	②ICT機器等の有効活用による業務効率化を実践	専門科 課・教科 学年団	ICT推進班を中心として研究が進み、ICT機器の効果的な活用による業務の効率化が進んでいる。	B	B
	③OJTによる人材育成を実践	専門科 課・教科 学年団	ベテラン教員が実習の示範や業務の引き継ぎを確実に行うことで、若手教職員の技術の向上や業務の継承が進んでいる。	B	B
	④コンプライアンスの徹底	専門科 課・教科 学年団	教員間のコミュニケーションを密にし、情報共有を図ることで、同僚性を高め、協働的な職場が醸成されている。	A	A

【プロジェクト】

・「Chromebook等の活用に関する研究」プロジェクト ～学習活動での効果的な活用方法について～